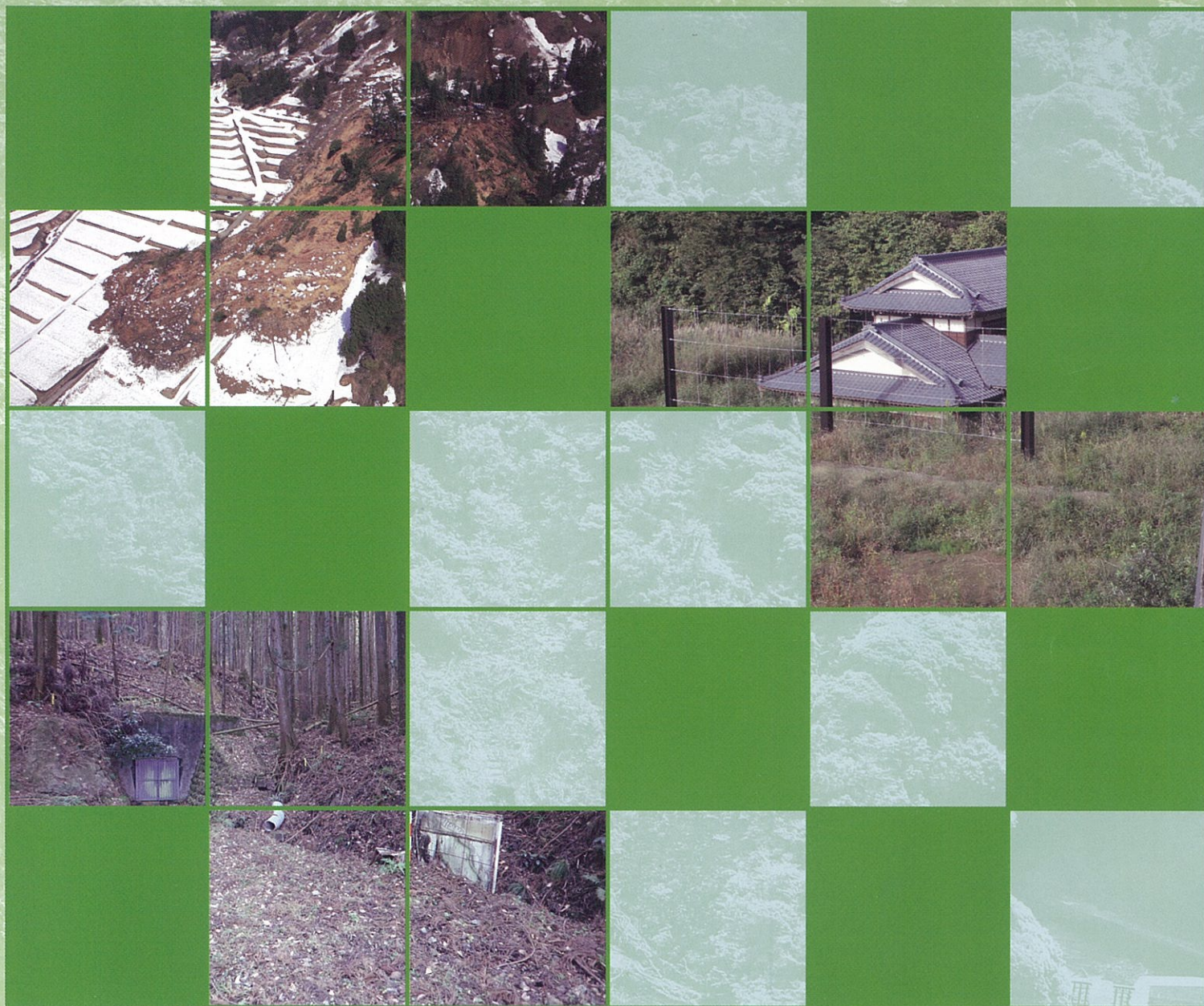


斜面防災技術

Vol.45
No.3



2018年12月 134



一般社団法人 斜面防災対策技術協会

URL:<http://www.jasdim.or.jp>

協会だより

「斜面防災対策技術フォーラム'18」 in 神戸

平成30年10月11日(木)、第21回「斜面防災対策技術フォーラム'18」 in 神戸ー若い技術者のためにーを、当協会の主催で開催しました。この会は、地すべり対策・がけ崩れ対策・雪崩対策に携わる若い技術者の技術研鑽と交流を目的として実施しているものです。

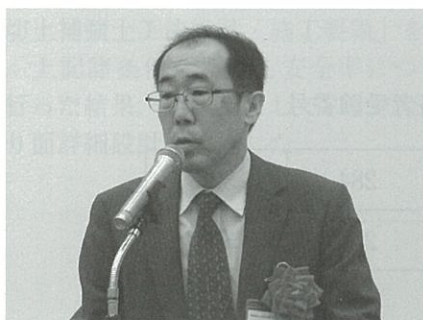
開催にあたり、国土交通省近畿地方整備局、林野庁近畿中国森林管理局、兵庫県、(一財)砂防・地すべり技術センター、(一財)砂防フロンティア整備推進機構、(公社)日本地すべり学会、(公社)砂防学会、NPO法人兵庫県砂防ボランティア協会、全国地すべり防止工事士会の後援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

フォーラムは、辻裕会長の開会挨拶により始まりました。来賓を代表して、国土交通省水管理・国土保全局砂防部保全課砂防施設評価分析官石塚忠範氏のご挨拶、続いて兵庫県技監伊藤仁志氏のご挨拶をいただきました。来賓の方々からは、協会の日頃の取り組みに対する謝意とともに、土砂災害対策の専門家集団としての当協会に技術の発展と人材育成を期待するとのお言葉をいただきました。

続いて、神戸市教育委員会文化財課長千種浩氏による特別講演「神戸の大地に刻まれた災害痕跡～遺跡から探る～」が行われました。考古学は、1988年の寒川旭氏による地震考古学の提唱により、自然科学分野と考古学の総合的な調査が進み、考古学では掘削した土層の理解が進むとともに、地震や火山学に対しての年代決定法として寄与することで、過去の災害を知り予知・防災に貢献する今日的な意義を見出したということです。

技術発表後に行われた特別講演では、神戸大学名誉教授沖村孝氏が、「六甲山の防災～過去・現在・未来～」と題してお話いただきました。六甲山では、過去、死者671名の1938年阪神大水害を契機に「100年の大計」としてハード対策を進め、1995年の阪神・淡路大震災を契機に減災という新しい仕組みを取り入れ現在に至っていると、そのうえで人的被害ゼロとするための将来の課題についてお話いただきました。

技術発表では、地すべり調査、解析、対策の10編(A会場)、抑制工、斜面災害、斜面崩壊の10編(B会場)、法面対策工、崩壊対策工、防災一般の10編(C



石塚分析官の来賓挨拶



伊藤技監の来賓挨拶



辻会長による開会挨拶



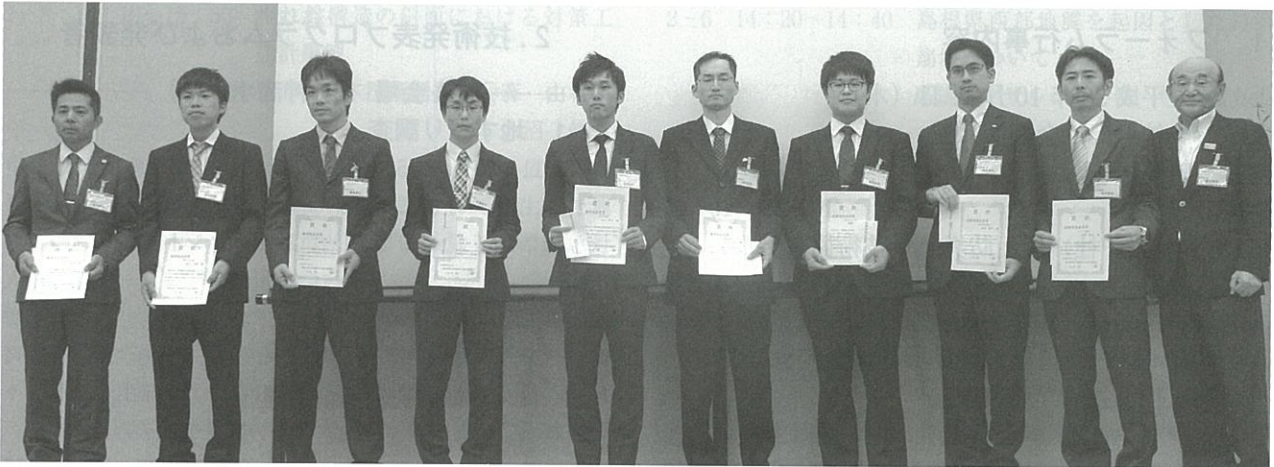
来賓の林任輝氏、松浦純生氏、田中秀基氏(左から)



講演中の千種文化財課長



沖村名誉教授による乾杯のご発声



優秀発表者の皆様



表彰式の黒川フォーラム委員長



協田関西支部長の閉会挨拶



岩本中国支部長の挨拶

会場)が発表され、各会場では熱気のこもった発表・議論が行われました。

皆、素晴らしい内容でしたが、特に優れた内容・発表を行った藤原直哉氏(奥山ボーリング株)・森本貴大氏(国土防災技術株)・木村智宏氏(ライト工業株)が最優秀発表者(各会場から1名)に、また津川文宏氏(中部地質株)・大矢遼太氏(日本工営株)・目黒恒平氏(株興和)・藤島雅也氏(株ホクコク地水)・谷口允哉氏(株タニガキ建工)・松本哲哉氏(日本建設技術株)が優秀発表者(各2名)に選ばれ、黒川フォーラム委員長から表彰状と賞金が授与されました。

意見交換会では、出席いただいた大勢の方々の活発な交流がなされるとともに、閉会にあたり、実行委員会が、関西支部の協田支部長から中国支部の岩本方克支部長へ引き継がれました。

今フォーラムにつきましては、全国の当協会会員

はじめ官公庁等から253名のご参加をいただき、盛会裡に終了いたしました。ここに厚く御礼申し上げます。

来年の第22回「斜面防災対策技術フォーラム'19」は、松江市で、10/17(木)～10/18(金)に開催いたします。多数の方の参加をお待ちしています。

フォーラム参加者(253名)の内訳

- ・講師、来賓7名
- ・運営関係者45名・協会本部役員16名・協会他支部19名・発表者30名・官庁学校関係者35名
- ・一般参加者101名(関西支部管内53名・関西支部以外48名)
- ・展示ブース出展団体19社